

梅之木通信

【縄文住居をつくる会】

第24号 2021. 3. 21 発行

2021年 作業が始まりました

みなさん、今年のお正月はいかがお過ごしでしたか。コロナ禍で例年のようにご家族が集まることもなく少し寂しい思いをされた方も多かったのではないかと思います。うちの場合はずっととは違い、孫たちの世話に追われることもなく、かえってゆっくりのんびりとお正月を過ごせたような気がしています。例年とは違い、じっくりと一年の目標を考えて、今まで以上に有意義な一年を暮らしていきたいものです。

『縄文住居をつくる会』も冬の休眠期間が終わり3月12日からまた作業を再開しました。コロナ感染の影響でなんでも自粛されて、多くのイベントやいつもの集まりが中止になってしまい、「外出する機会が減ってしまった」という話をあちらこちらで耳にします。また、「いろんな人と話をする機会が減ってストレスが溜まっている!!」という方も多いかと思います。『縄文住居をつくる会』では野外での作業でもあり、山梨の感染者数があまり多くないこともあって、予定通り12日から作業を開始することとしました。とは言え、各自が高齢者を自覚しているメンバーです。マスク着用は当然ですが、密集して作業することがないように、伐採組、垂木調整、柱の焼き入れ、土止め修復、火の当番・・・と自然に作業を分担していきます。「密集しない!」という考慮もありますがそれぞれが出来る範囲で一役一役を楽しんでいきましょう。

❁ 土止め修復作業

今回の住居には、熊さんの意匠が加わって住居内の土止めも杉皮での編み込みが施されています。崩れてくる土砂と格闘しながら、くい打ち、編み込み、更には割れやすい杉皮、頭と手をフルに働かせないとうまくいきません。何度もやり直ししながら協力しての作業となると思いのほか悪戦苦闘の作業だったようです。黙々と作業するばかりではなく、「こうしたら?」

「やっぱりだめか～」考えながら、話し合っ
て作業が進められるのも屋外での作業だからこそかもしれません。日頃の自粛生活の発散の場にもなったようで、どの作業場でも笑い声が絶えません。



❖ 垂木組み上げ作業

4号棟の床面積が広いこともあります。3号棟建設の経験から垂木をできるだけ凹凸にせず、間隔を狭めることで全体の形がよくなることや、横木の取り付けが容易になることを学習しました。不足分の垂木とする材料を伐採し垂木の間隔が広がった箇所に加えていくと、だんだん綺麗な円錐形が現れてきます。見上げてみると、垂木の本数が多いことがよく判ります。

垂木の梁への本縛りもほぼ完了してきました。

これからは、横木を垂木に取り付ける作業になってきます。前は、「とりあえず取り付け」といった感じで取り付けられてしまったため、後で上に乗って折れてしまったりする事が頻繁に発生してしまいました。後々の作業を考え丈夫な枝や、枯れていない枝を使用していくことが重要である事を前回経験したので、これからの横木の取り付け作業にも生かしていく事が出来そうです。



❖ コラボレーション???

だんだん気候が暖かくなってきたこともありますが、毎週作業をしているといろいろなグループに出会います。



❖ どこかの施設かサービス事業所から春の陽気に誘われて散歩がてらに見学に来られたのでしょうか。我々より、ちょっと？先輩がたにも石斧を初体験してもらいました。



❖ 縄文の舞かと思ったら、ハワイアのグループ

春分の日なので、大地と太陽に感謝をささげる踊りと歌をこの遺跡で、とのこと。縄文からハワイアンにまで繋がるロマンがこの地にはあるのかも知れません。

縄文人がここに暮らした理由もハワイアンとどこか繋がる感性も判然とはしませんが、大地や太陽と共に暮らし、季節の移ろいに応じた暮らし方は、現代の生活に色あせてしまったものの様な気がします。

